

資料③：実証実験の利用状況(中間報告)

目 次

1.実証実験の利用状況の概略.....	1
1-1.利用者数の推移.....	1
1-2.平日休日別・時間帯別の利用状況.....	3
2.利用者の属性.....	4
2-1.市民・観光客の内訳.....	4
2-2.市民利用者の属性.....	5
2-3.観光客利用者の属性.....	7
3.「おでかけなんじい」での立ち寄り先.....	8
3-1.市民の立ち寄り先.....	8
3-2.観光客の立ち寄り先.....	14
4.「おでかけなんじい」の利用状況の変化のまとめ.....	15

平成 27 年 3 月

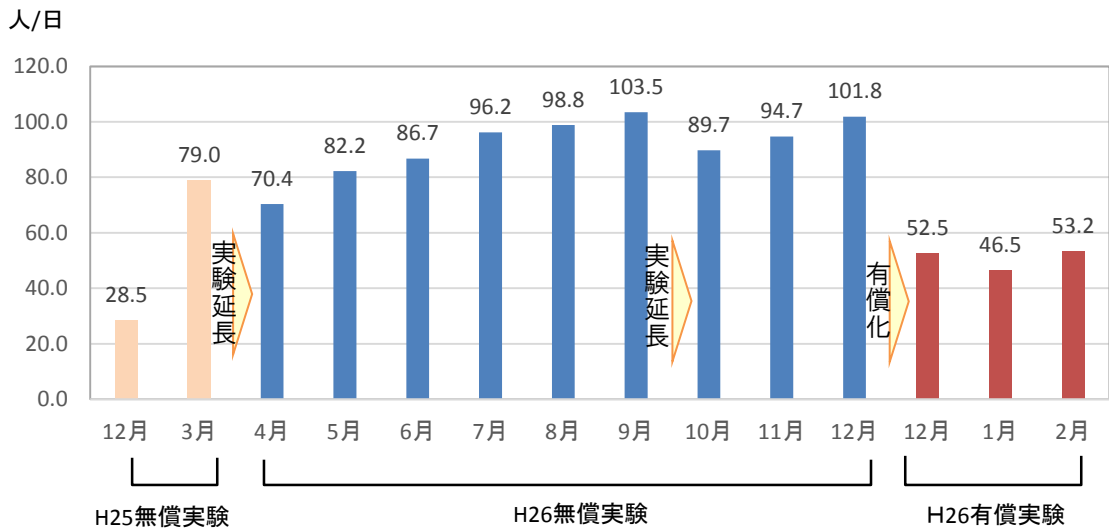
南 城 市

1.実証実験の利用状況の概略

1-1.利用者数の推移

- 「おでかけなんじい」の利用者数は、平成25年度12月の実験開始時の28.5人/日から平成25年度3月には79.0人/日へと増加、平成26年度になっても利用者数は概ね増加傾向を示し、平成26年度12月では101.8人/日まで増加しました。
- 平成26年度12月からの有償化により、「おでかけなんじい」の利用者は大幅に減少、平成26年度2月の利用者数は51.0人/日と、平成26年度12月の約半分となっています。
- H26無償実験とH26有償実験の期間中の平均利用者数は、それぞれ92.2人/日、51.0人/日であり、有償化に伴い利用者数が55%に減少(45%減)しています。
- なお、無償実験の実験期間延長直後の平成26年度4月、平成26年度10月は、前月に比べ利用者数が減少しており、実験期間延長時の広報に工夫が必要だと考えられます。

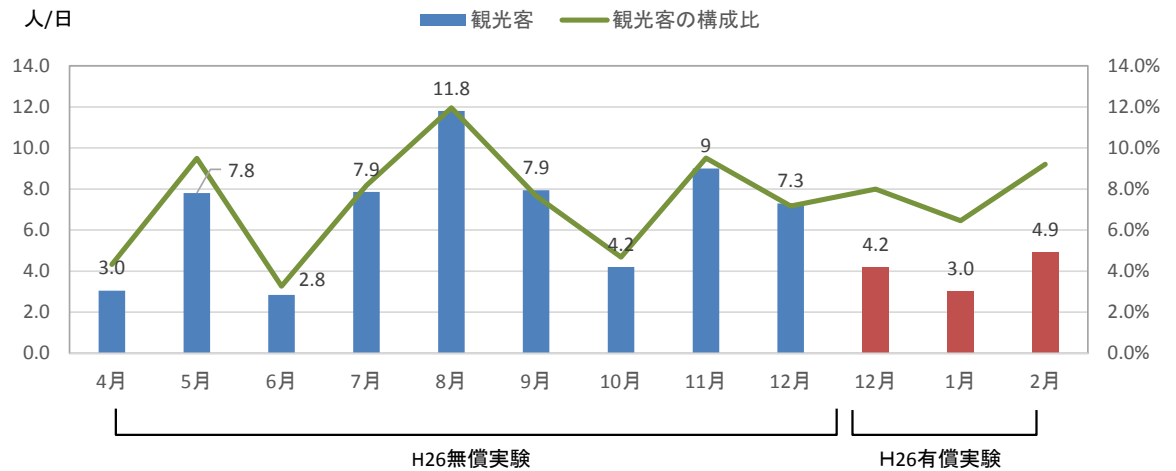
H26無償：92.2人/日
H26有償：51.0人/日



データ：システムデータ

図-1.「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移

- 観光客の「おでかけなんじい」の日平均利用者数の推移をみると、月による変動が非常に大きく、H26 無償実験期間中では、最小は6月の2.8人/日に対し、最大は、8月の11.8人/日と8.0人/日、4.2倍の大きな差があります。
- 季節変動が大きいため一概にはいえませんが、H26 有償実験の12月～2月の利用者数は3.0～4.9人/日とH26 無償時の12月7.3人/日の4～7割の水準となっています。

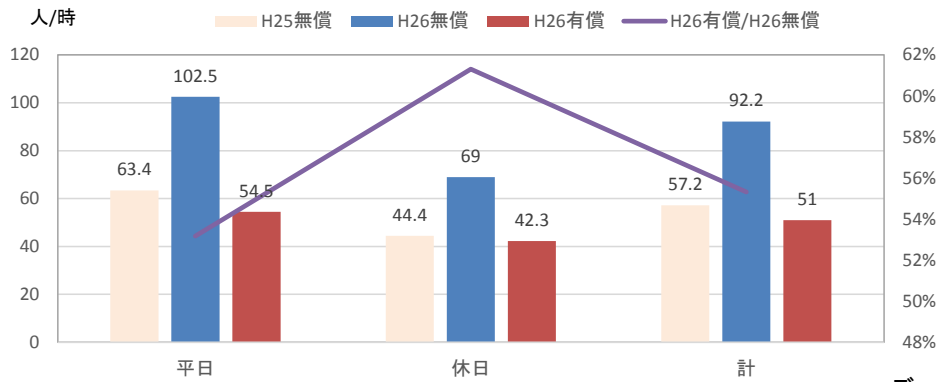


データ: システムデータ

図-2.「おでかけなんじい」の観光客の日平均利用者数の推移

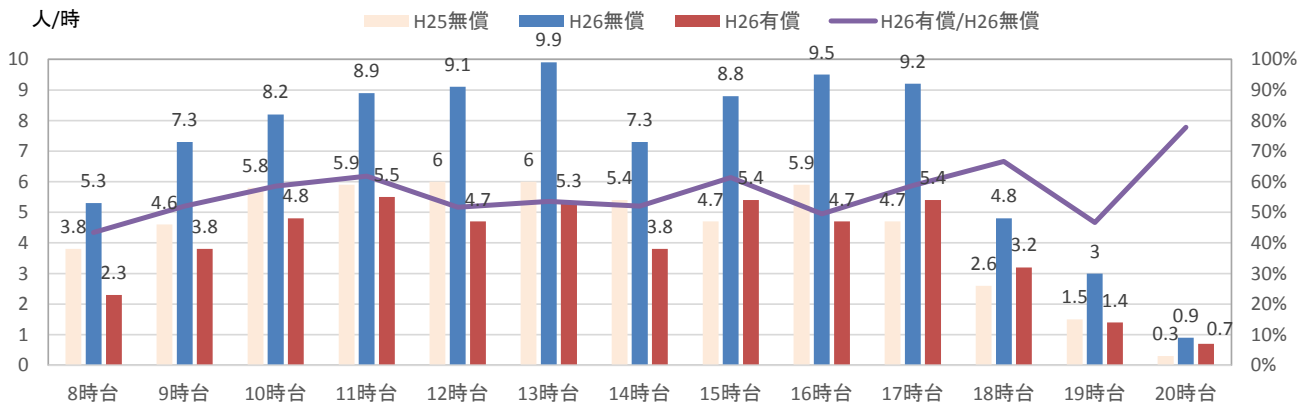
1-2.平日休日別・時間帯別の利用状況

- 平日の利用状況を見ても、H26 無償は 102.5 人/日の利用があったのが、H26 有償では 54.5 人/日と 48.0 人/日、47%減と大幅に減少しています。
- 休日も H26 無償の 69.0 人/日から H26 有償は 42.3 人/日へと 26.7 人/日、39%減少しています。
- H26 無償の平休比（休日/平日）は 0.67 に対し、H26 有償は 0.77 と平日と休日の利用者数の差が小さくなっています。
- 時間帯別では H26 無償に比べ、H26 有償は全時間帯で利用者数が減少していますが、特に 8 時台、16 時台、19 時台の朝夕は半分以下と大きく減少しています。



データ:システムデータ

図-3.平日・休日別の「おでかけなんじい」の日平均利用者数



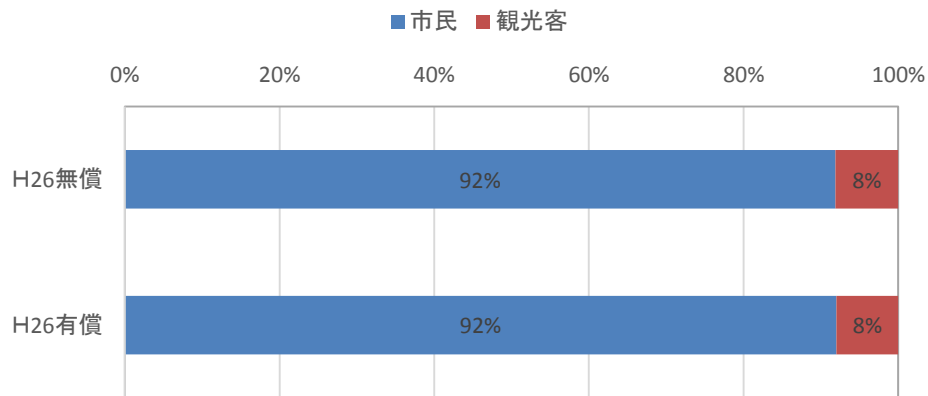
データ:システムデータ

図-4.時間帯別の「おでかけなんじい」の日平均利用者数

2.利用者の属性

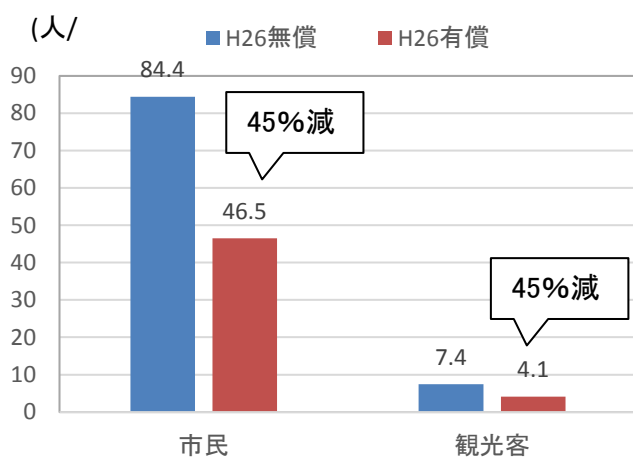
2-1.市民・観光客の内訳

- H26 無償実験では、市民 18,058 人、観光客 1,588 人の計 19,656 人が、H26 有償実験（H27.2 末時点）では市民 3,537 人、観光客 308 人が「おでかけなんじい」を利用しました。
- H26 無償実験、H26 有償実験の市民の構成比は 92%、観光客の構成比は 8%と同じであり、有償化により市民、観光客ともに 45%利用者数が減少しています。
- なお、アンケートで推計した運賃 300 円における利用者数の予測は 43 人/日であり、実績は 51 人/日と予測をやや上回る結果で推移しています。



データ:システムデータ

図-5.「おでかけなんじい」利用者の市民・観光客の構成比



データ:システムデータ

図-6.市民・観光客の「おでかけなんじい」利用者数の変化

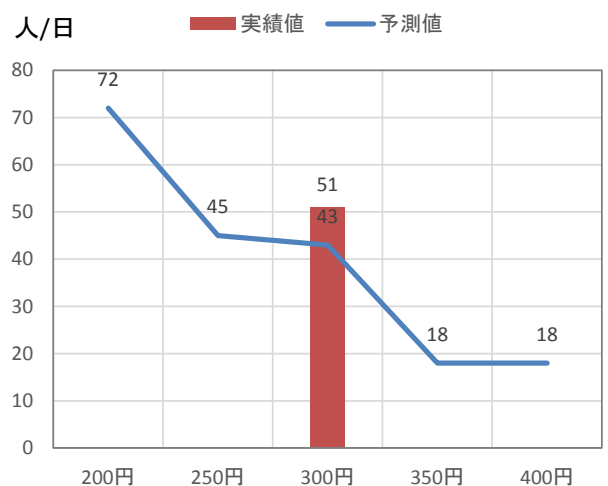
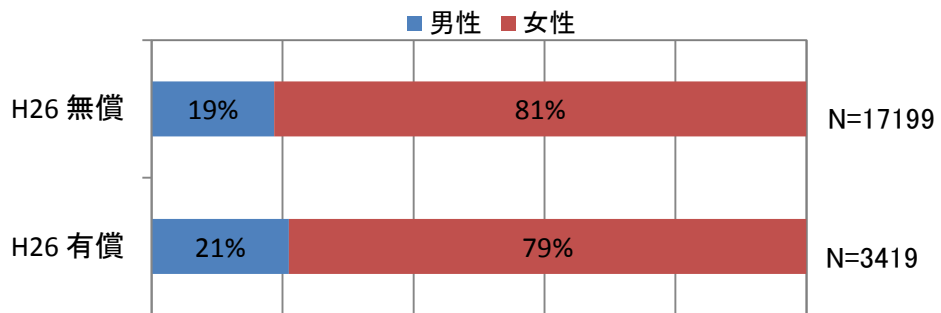


図-7.当初予測との比較

2-2.市民利用者の属性

(1)性別

- 実証実験利用者（市民）の男女比は、H26 無償実験、H26 有償実験ともに、2：8 で女性の割合が非常に高くなっています。

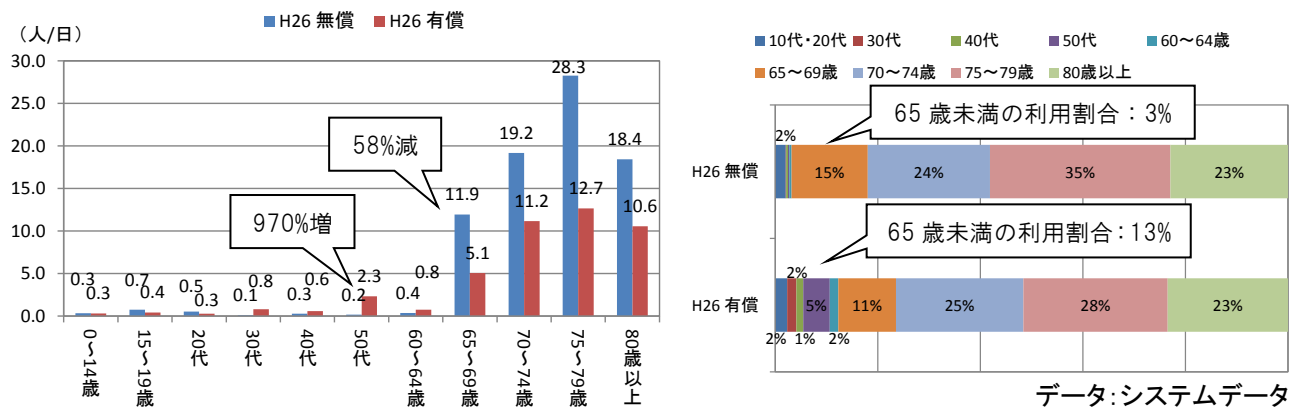


データ:システムデータ

図-8.「おでかけなんじい」利用者の性別(市民)

(2)年齢

- H26 無償実験、H26 有償実験ともに、「75～79 歳」の利用が最も多くなっていますが、有償化により利用者数はほぼ半減しています。
- 65 歳以上の利用者数は大きく減少、特に「65～69 歳」は 58%減と減少幅が大きくなっています。
- 有償化により久高島在住以外の 65 歳未満の方も登録できるようになったことで、30 歳以上の利用が増加、特に「50 代」は 970%増と約 11 倍に増加していますが、全体に占める割合は 5%にとどまっています。
- 65 歳未満の利用割合は、H26 無償実験の 3%から H26 有償実験では 13%に増加しています。



データ:システムデータ

図-9.「おでかけなんじい」利用者の年齢構成(市民)

(3)地域別の利用者数

地域別に「おでかけなんじい」の利用状況を把握するため、自宅が出発地となっている利用者の移動を対象に、自宅所在地を「玉城」、「知念」、「佐敷」、「大里」、「つきしろ」の地域区分で整理しました。

- 「つきしろ」地域以外はH26 無償から利用者数が減少、特に「玉城」地域はH26 無償の10.0人/日から、H26 有償では3.9人/日へと6.1人、61%の大幅な減少となっています。
- その他では、「佐敷」地域も56%減と大きく減少しています。
- この結果、地域別利用者の構成比は、「玉城」、「佐敷」、「知念」、「大里」、「つきしろ」の順から、H26 有償では、「知念」、「佐敷」、「玉城」、「大里」、「つきしろ」と大きく変化しています。

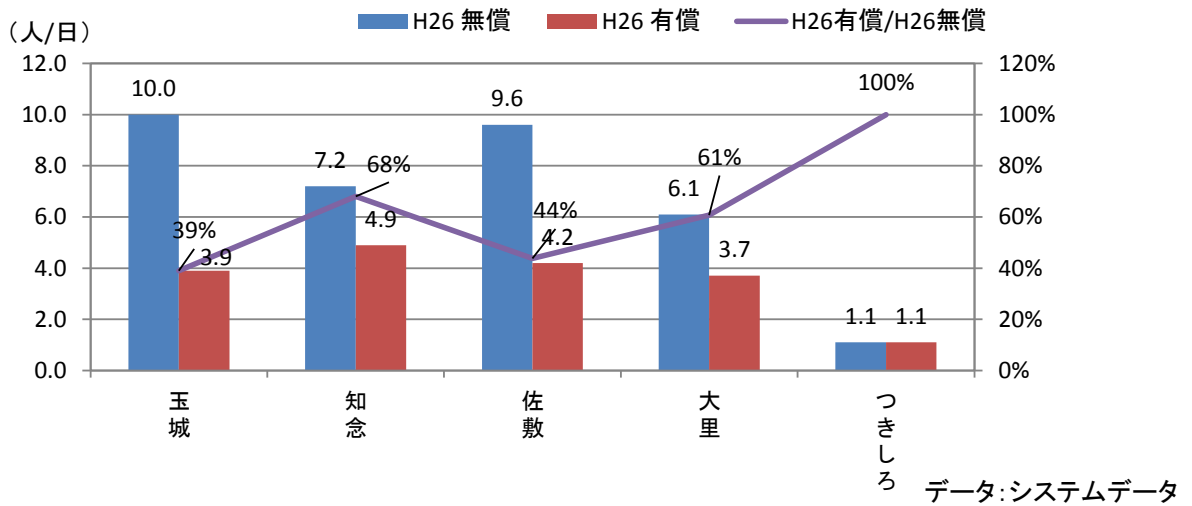


図-10.地域別の「おでかけなんじい」利用者数の変化(市民、自宅出発)

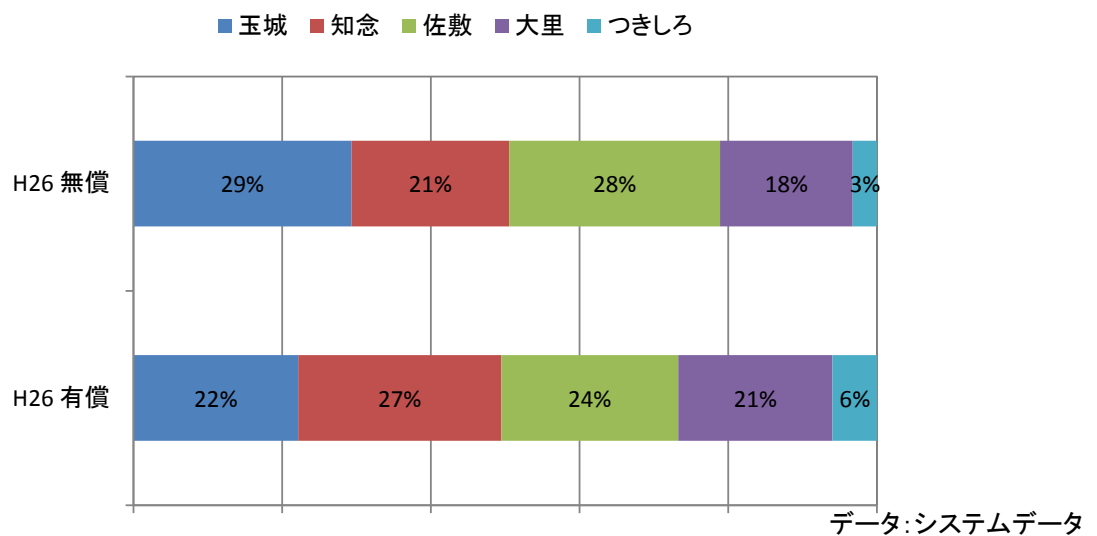


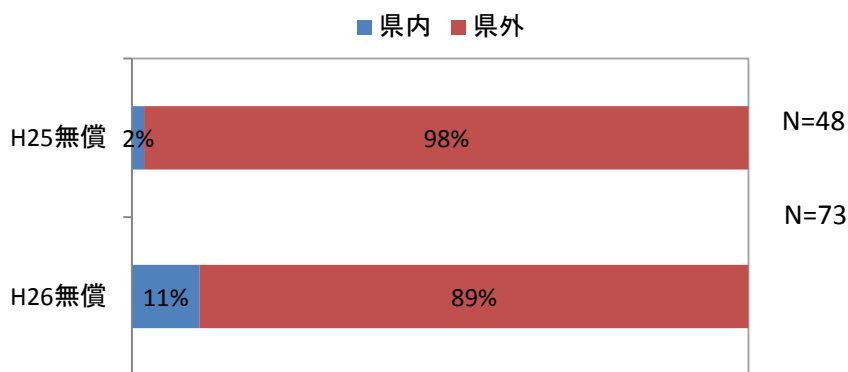
図-11.「おでかけなんじい」利用者の地域別構成比(市民、自宅出発)

2-3.観光客利用者の属性

H25 無償、H26 無償における利用者アンケートより、観光客の利用状況を整理しました。なお、H26 有償のアンケートはこれから実施予定となっています。

(1)居住地

- 観光客の居住地は県外が大半を占めていますが、県内居住者の割合はH25 無償実験の2%から、H26 無償実験では11%と9ポイント増加しています。

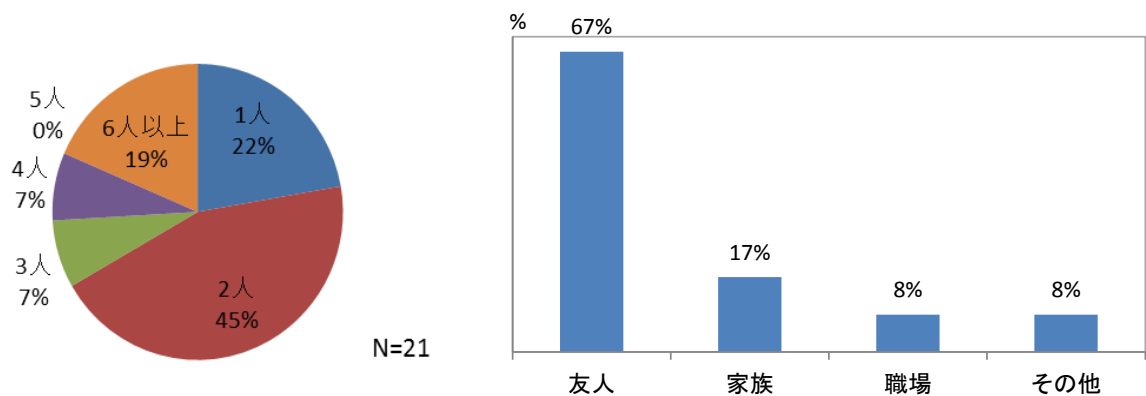


データ:利用者アンケート調査

図-12.「おでかけなんじい」利用者の居住地(観光客)

(2)同行者

- H26 無償実験における同行者の状況をみると、「2人」利用が45%と最も多く、複数人数での利用は全体の78%を占めています。
- 同行者の内訳は「友人」が67%と7割を占めており、その他では「家族」が17%と多くなっています。



データ:利用者アンケート調査

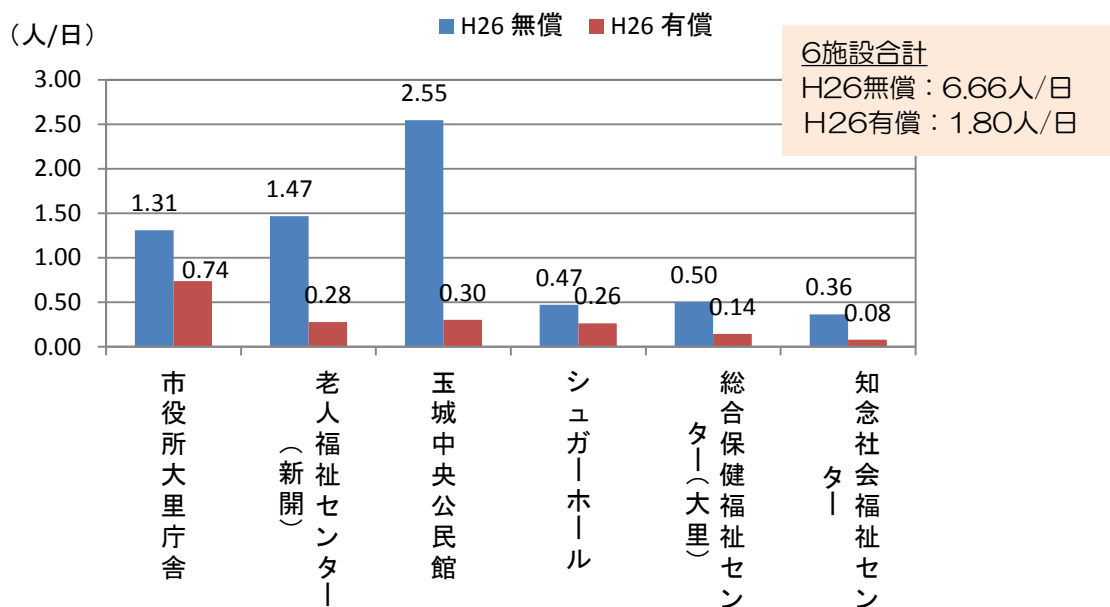
図-13.「おでかけなんじい」利用者の同行者(観光客、H26 無償)

3.「おでかけなんじい」での立ち寄り先

3-1.市民の立ち寄り先

(1)公共施設への立ち寄り

- H26 無償実験では、「玉城中央公民館」への立ち寄りが 2.55 人/日と多かったのが、H26 有償実験では 0.30 人/日と 2.25 人/日、88%の大幅な減少となっています。
- その他の公共施設も大幅に利用者が減少、6 施設の合計でH26 無償実験 6.66 人/日からH26 有償実験では 1.80 人/日へと 4.86 人/日、73%減少しています。

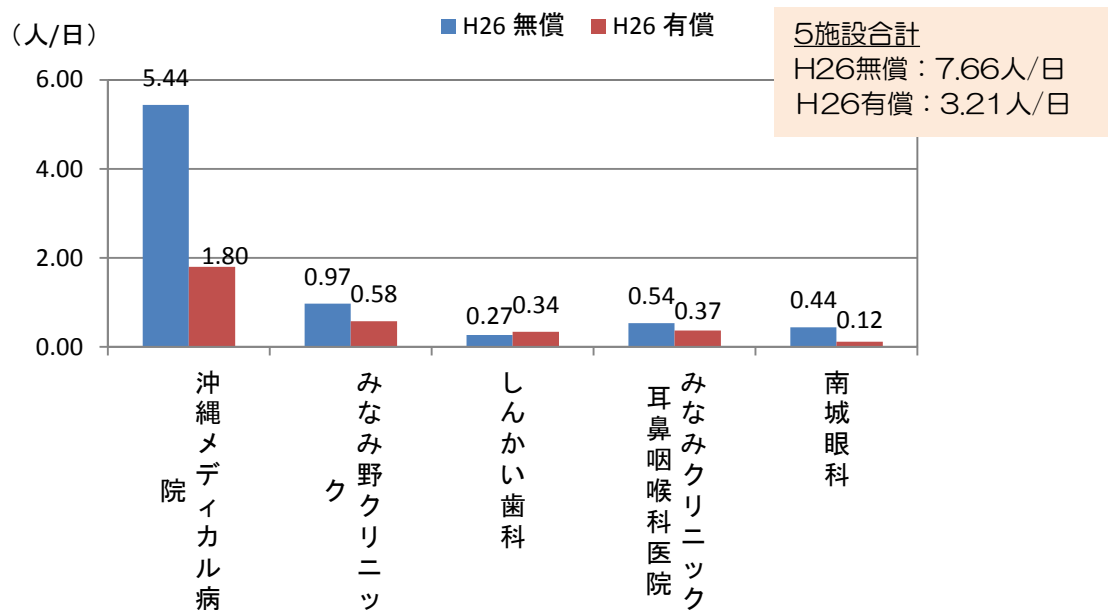


データ:システムデータ

図-14.「おでかけなんじい」利用による公共施設への立ち寄り状況の変化(市民)

(2)医療機関への立ち寄り

- 主な医療機関への立ち寄りは、5施設合計でH26 無償実験の 7.66 人/日からH26 有償実験では 3.21 人/日へと 4.45 人/日、58%の減少となっています。
- H26 無償実験では 5.44 人/日と非常に利用者が多かった「沖縄メディカル病院」ですが、H26 有償実験では 1.80 人/日と 3.64 人/日、67%の大幅な減少となっています。
- なお、「しんかい歯科」はこの5施設の中では唯一、利用者数が増加しています。

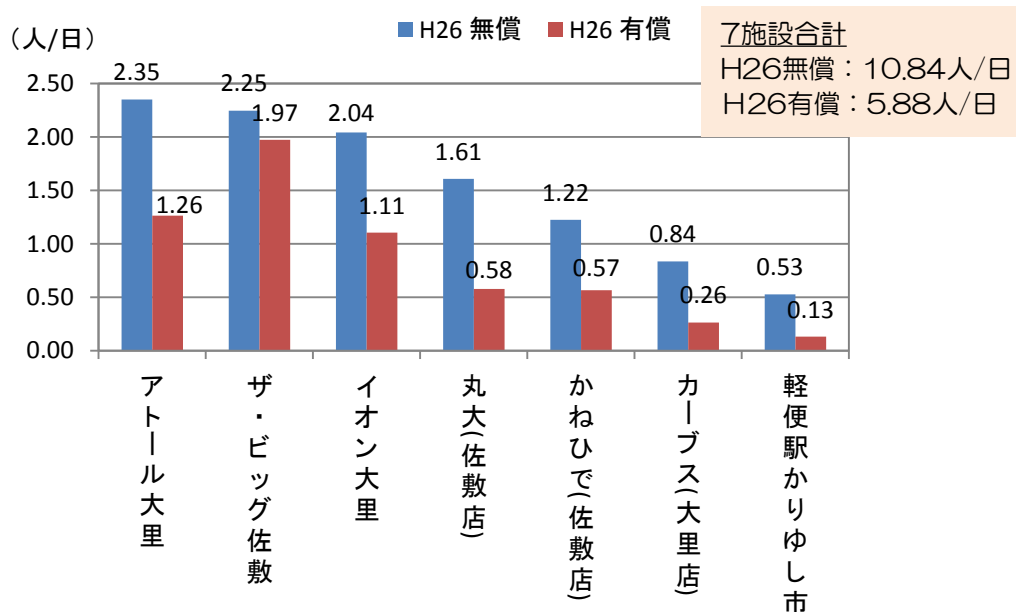


データ:システムデータ

図-15.「おでかけなんじい」利用による医療機関への立ち寄り状況の変化(市民)

(3) 商業施設への立ち寄り

- 主な商業施設への立ち寄りは、7施設合計でH26 無償実験の 10.84 人/日からH26 有償実験では 5.88 人/日へと 46%の減少となっています。
- 多くの商業施設への立ち寄り者数が半減している中で、「ザ・ビッグ佐敷」はH26 無償実験の 2.25 人/日からH26 有償実験では 1.97 人/日へと 0.28 人/日、12%の減少にとどまっています。

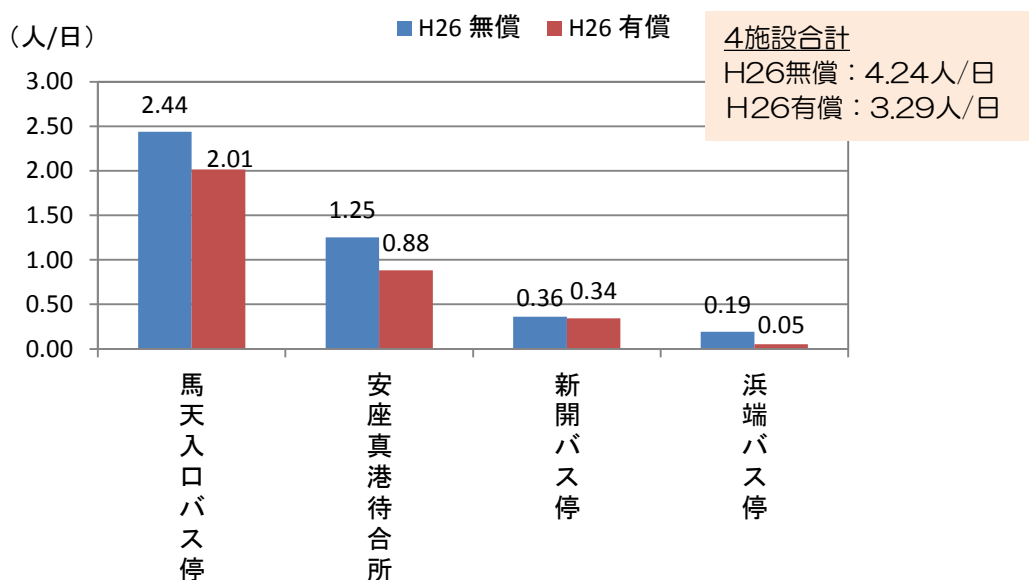


データ:システムデータ

図-16.「おでかけなんじい」を利用による商業施設への立ち寄り状況の変化(市民)

(4)交通施設への立ち寄り

●主な交通施設への立ち寄りは、4施設合計でH26 無償実験の4.24/日からH26 有償実験では3.29人/日へと0.95人/日、22%の減少となっています。

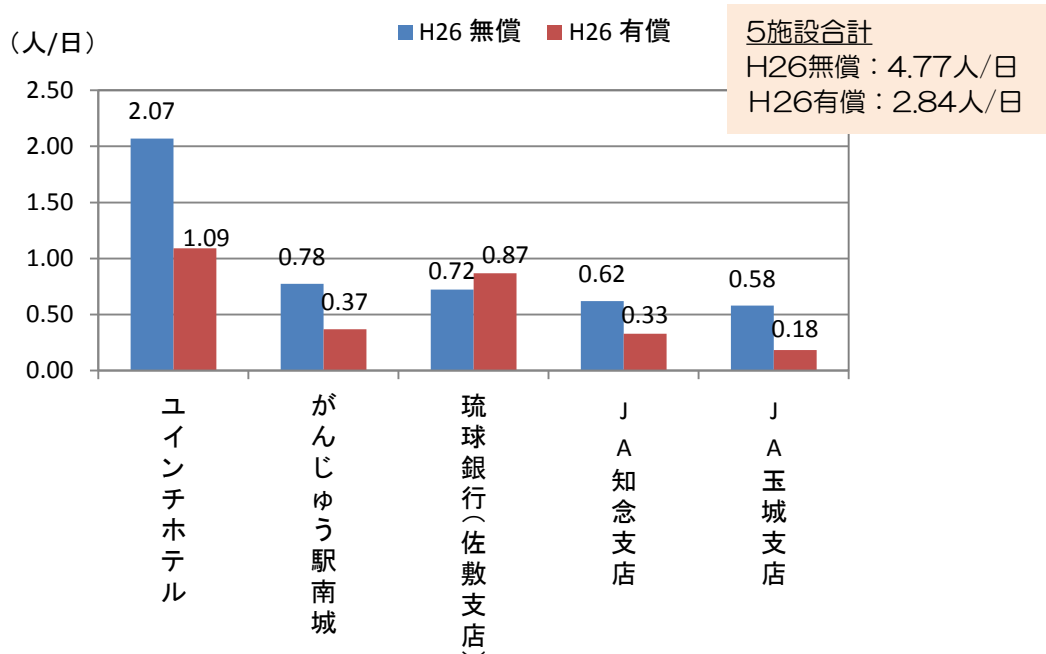


データ:システムデータ

図-17.「おでかけなんじい」利用によるし交通施設への立ち寄り状況の変化(市民)

(5)その他施設への立ち寄り

- その他施設への立ち寄りは、5施設合計でH26 無償実験 4.77 人/日からH26 有償実験では 2.84 人/日へと 1.93 人/日、40%の減少となっています。
- 市民の「ユインチホテル」、「がんじゅう駅南城」といった観光施設への立ち寄り（おそらく通勤目的の利用と思われる）もみられますが、H26 無償実験に比べ、H26 有償実験では、それぞれ 48%減、53%と半分近くに減少しています。
- 「琉球銀行（佐敷支店）」はH26 無償実験の 0.72 人/日から H26 有償実験では 0.87 人/日へと増加しています。
- 「JA 知念支店」、「JA 玉城支店」はそれぞれ 47%減、69%減と大きく減少しています。

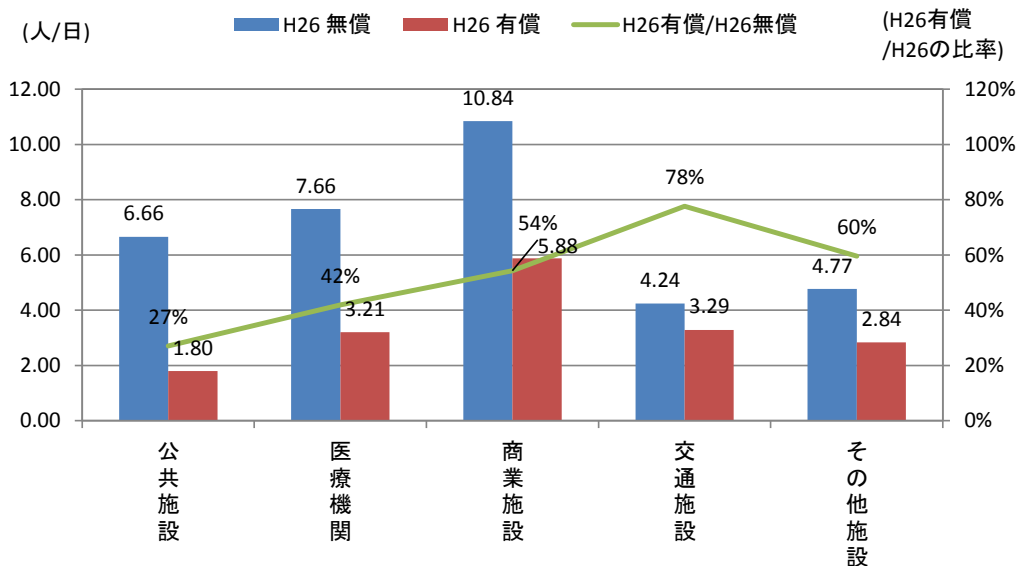


データ:システムデータ

図-20.「おでかけなんじい」利用によるその他施設への立ち寄り状況の変化(市民)

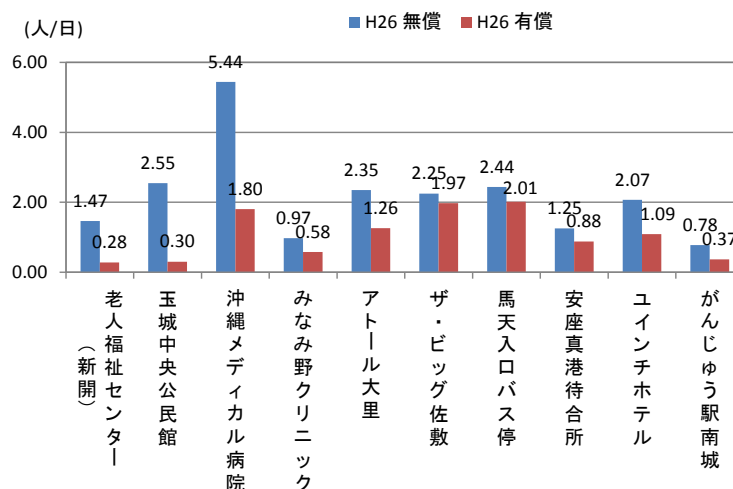
(6)市民の立ち寄り先のまとめ

- H26 無償実験からH26 有償実験への移行により、「おでかけなんじい」の利用者数は、92.2人/日から51.0人/日へと45%減少していますが、市民の立ち寄り先別にみると、「公共施設」の立ち寄りがH26 無償実験に比べ、27%の利用（73%減）と大幅に減少しています。
- また、「医療機関」、「商業施設」への立ち寄りもほぼ半減しています。
- 一方、「交通施設」については、H26 無償実験の79%の利用（21%減）にとどまっております。市外へのアクセス拠点となる「馬天入口バス停」等の利用が大幅に減少していないことから、市外への移動のニーズ・重要性は高い、もしくは家族等の送迎での代替が難しい状況であることがうかがえます。



データ:システムデータ

図-18.「おでかけなんじい」利用での立ち寄り施設の区分別の変化(市民)

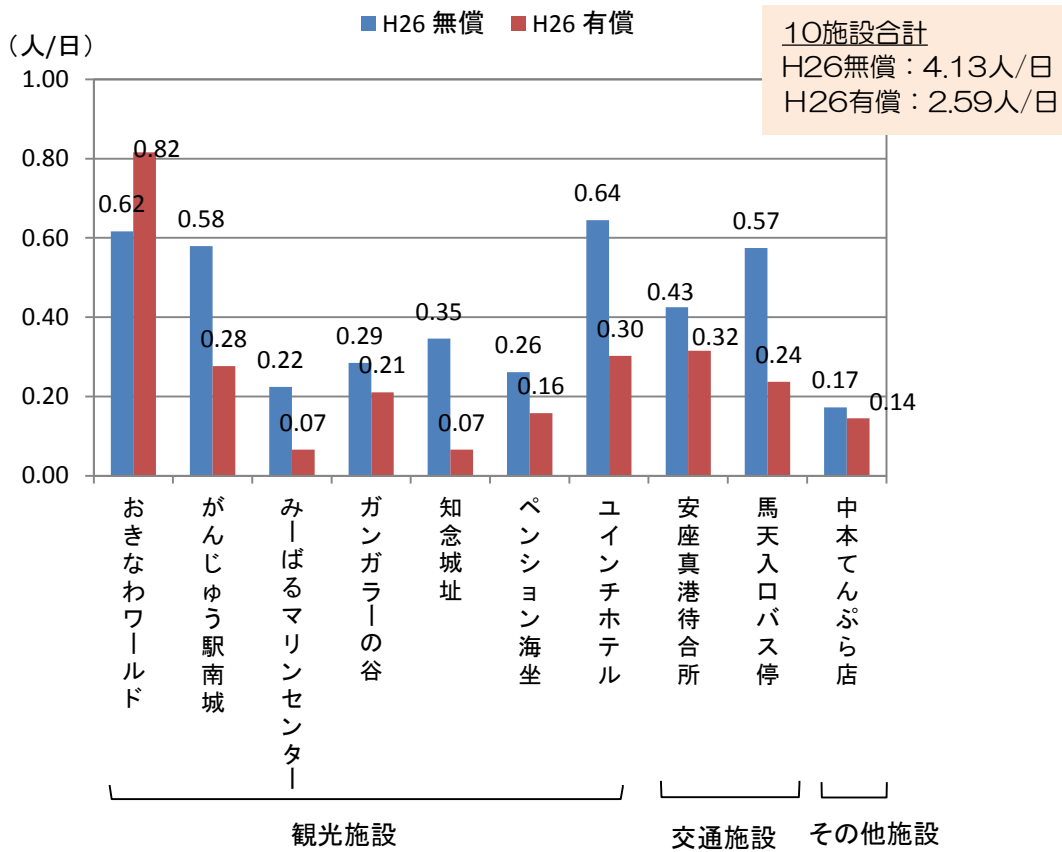


データ:システムデータ

図-19.「おでかけなんじい」の主な施設への立ち寄り状況(市民)

3-2.観光客の立ち寄り先

- 観光客の「おでかけなんじい」での立ち寄り先は、10施設合計でH26 無償実験 4.13 人/日からH26 有償実験では 2.59 人/日へと 1.54 人/日、37%の減少となっています。
- 全体的に利用は減少していますが、「おきなわワールド」は0.62 人/日から0.82 人/日へと増加しています。
- 一方、「みーばるマリンセンター」や「知念城址」などは大幅に立ち寄りが減少しています。
- ただし、観光客については季節変動が大きいので、H27 夏季における有償実験の利用状況を踏まえた分析が必要になります。



データ:システムデータ

図-20.「おでかけなんじい」を利用するの立ち寄り先(観光客)

4.「おでかけなんじい」の利用状況の変化のまとめ

- 「おでかけなんじい」の利用者数は、平成 25 年度 12 月の実験開始から順調に増加してきましたが、H26 年度 12 月の有償化により、市民、観光客ともに利用者数はほぼ半減しています。
- 市民の「おでかけなんじい」の利用は、男女比が 2 : 8 と女性の割合が高く、有償化によっても比率は変化していません。
- また、年齢構成は、有償化により 65 歳未満の利用割合が 3%から 13%に増加、年代別では、「50 代」が 970%増と大幅に増加しています。
- 市民の立ち寄り先は、「公共施設」が 73%減と大幅に減少、「医療機関」、「商業施設」もほぼ半減していますが、「交通施設」については 2 割減にとどまっており、市外への移動については、移動の必要性が高く、有償化しても市外の路線バスへのアクセス手段として機能している状況がうかがえます。
- なお、観光客については季節変動が大きいため、H27 有償実験の結果を踏まえ、利用実態や変化の要因分析等を行います。